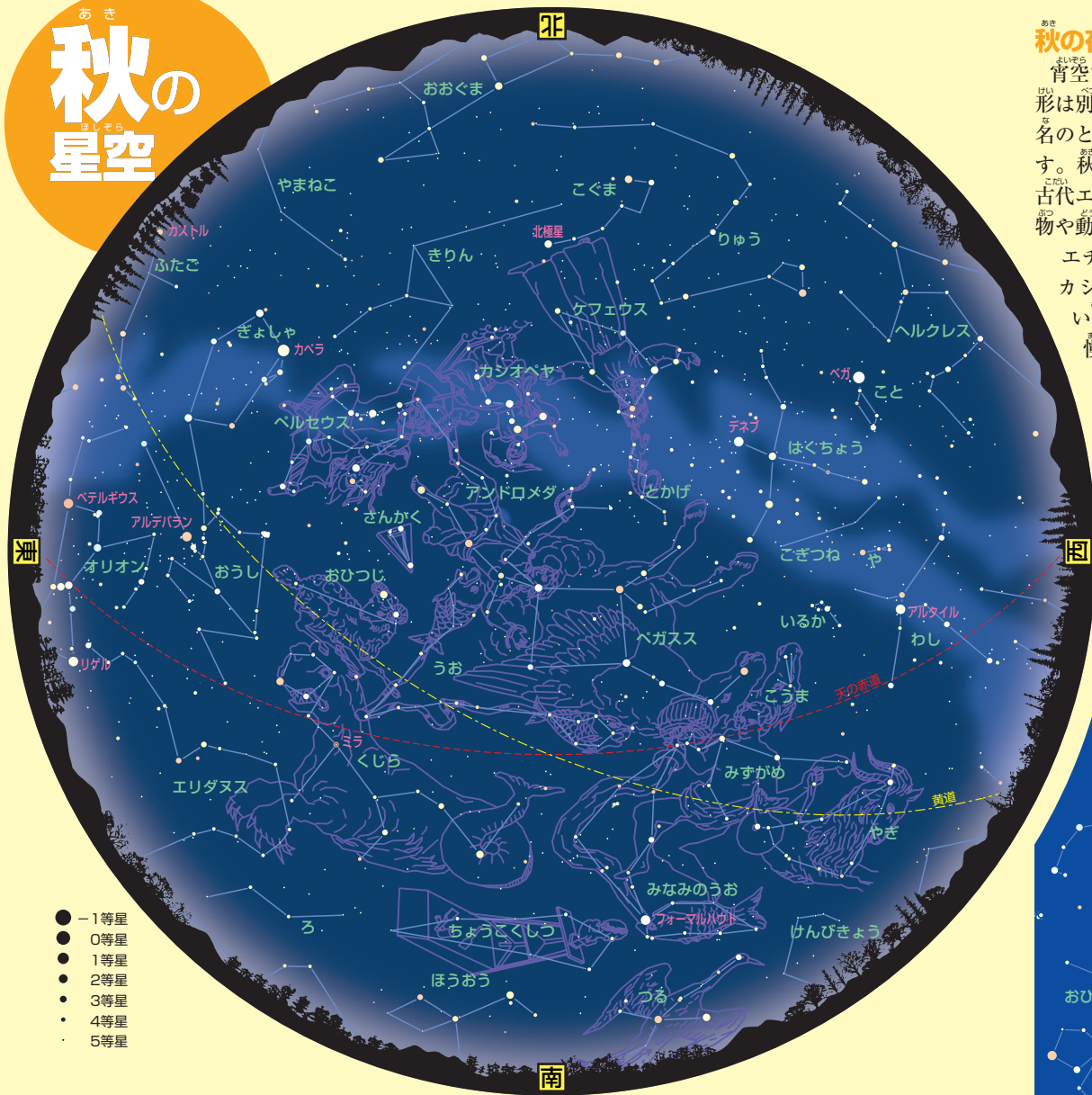


あき 秋の 星空



- -1等星
- 0等星
- 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星
- 5等星

この星空が見える日時

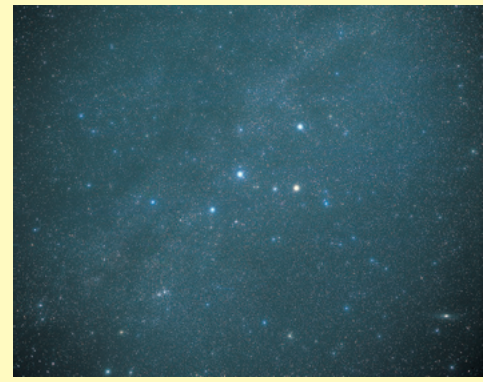
7月中旬	午前 4時
8月中旬	午前 2時
9月中旬	午前 0時
10月中旬	午後 10時
11月中旬	午後 8時

秋の夜空は、ほかの季節と比べて明るい星が少なくさびしい印象ですが、北の空にはカシオペヤ座が昇り、北斗七星に代わって北極星を探す目じるしになってくれています。北極星を探すには、ほかにもいくつか方法があります。まずは、ほぼ真上に見える4つの星「秋の四辺形」を見つけることからスタートしましょう。

秋の夜空で繰り広げられる物語

宵空でちょうど真上あたりに見える秋の四辺形は別名「ペガサスの四辺形」ともいい、その名のとおり天馬ペガサスの胴体部分にあたります。秋の夜空はこのペガサスをはじめとして、古代エチオピアの王家にまつわる物語の登場人物や動物たちが勢揃いしています。

エチオピア王のケフェウスとその後であるカシオペヤには、アンドロメダという美しい娘がいました。日頃からその美しさを自慢していたカシオペヤは、ついに「娘は海の妖精たちよりも美しい」とまで言ってしまう。腹を立てた海の神ポセイドンは、エチオピアの海岸に化けクジラを送り込み、津波を起こして国を襲わせました。ポセイドンの怒りを鎮めて化けクジラを追い払うため、ケフェウス王は泣く泣く、愛娘のアンドロメダをいけにえに捧げました。



W字形をしたカシオペヤ座。秋の宵に北を向いて見上げるとM字形をしています。写真右はアンドロメダ銀河のクロースアップ。双眼鏡でもボンヤリとした楕円形に見えます。



海岸につながれたアンドロメダが化けクジラに襲われそうになった、まさにそのとき、怪物メドゥーサを退治して国へ戻る途中の勇者ペルセウスが、天馬ペガサスにまたがって通りかかります。ペルセウスが差し出したメドゥーサの首を見て、化けクジラは恐ろしさのあまり岩になり、海に沈んでしまいました。ペルセウスは命を救ったアンドロメダと結婚し、エチオピアを治める主になったといわれます。彼らはそれぞれ「ペルセウス座」「アンドロメダ座」「ケフェウス座」「カシオペヤ座」「ペガサス座」「くじら座」として秋の夜空を彩っています。